

研修報告2



第2回こどもプラザ事業

「太陽の広場」「地域の学校」連絡会

令和4年12月9日(金) 午前10時～

ブロックアドバイザーが進行役となって3つのグループに分かれ、太陽の広場のフレンドさんが、コロナ禍での実施の工夫や普段の活動の様子などについて、交流しました。参加者からは、「他の広場の様子などを知ることができてよかった」「交流の時間がもっとあってよかった」などの嬉しい意見をいただきました。



第4回青少年指導者講習会 令和4年11月24日(木)

「すぐ役立つ!体験型!

午前10時～

子どもたちとの関わり方及び具体的活動手法の実践」

赤木 功氏

二人でペアになり、お互いのパーソナルスペースを確認し心の距離感を縮めるには目的や経験を同じにすることが有効だと学びました。また、子供を信じ、子供自身の気づきを引き出すような声かけや活動が子供を成長させ、より主体的な学びにつながると知りました。最後のグループワークも、メンバーの協力と互いの発想力が問われ、最後にみんなで考えた内容を発表することで一体感が生まれたと感じました。



第5回青少年指導者講習会 令和5年1月20(金) 午前10時～

「自己肯定感を育てるには ～地域と家庭にできること～」

伊丹 昌一氏

今回のお話は、反応性愛着障害やギフテッド、起立性調節症・HSC(ハイリーセンシティブチャイルド)などのお話を中心に、二次症状を起こしている子供たちへの支援方法などを教えていただきました。声かけはC(Calm 穏やかに)、C(Close 近くで)、Q(Quietly 静かに)、P(Positive 前向きに)で行う。ダメなことはダメと毅然とした態度で臨むなどです。最後に、「大人の笑顔の向こうに子供の笑顔がある、笑顔忘れずに」と締めくくられました。皆さん、子供たちの未来のために、無理せず頑張りましょう。

千里金蘭大学との連携

千里金蘭大学との連携は平成24年度から始まりました。児童教育学科1年生の必修授業「子ども地域活動Ⅱ」の中で、地域社会で行われている子育て支援の仕組みなどについて学ぶとともに地域の方や子供たちと実際に触れあうことで、地域社会や子供への理解を深めることを目的としています。学生は、こどもプラザ事業について事前学習をした後、実際に「太陽の広場」活動に参加し、子供たちと遊びを通してコミュニケーションを図り、人間関係を育んでいます。

【発行・連絡先】

〒565-0824

吹田市山田西4丁目2番43号 子育て青少年拠点夢つながり未来館(ゆいぴあ)3F

吹田市教育委員会 地域教育部 青少年室

Tel 06(6816)9890

Fax 06(6816)8554

～地域コミュニティづくりをめざして～

令和5年2月発行

教育コミュニティ北東西南 NEWS 2022



令和元年度から続くコロナ禍で、令和2年度、3年度は感染拡大を懸念して、こどもプラザ事業をはじめ講習会も思うように実施することができませんでした。しかし、今年度は、感染防止対策を講じて、久しぶりに対面での講習会を開催することができ、講師の方から多くの有意義なお話を聞くことができました。また、こどもプラザ事業においても、連絡会を実施し、フレンドさんやスタッフの方に来ていただき日常の活動の工夫や悩みなどについて交流できました。

研修報告1



AED

第1回青少年指導者講習会 令和4年6月28日(火)

第1回こどもプラザ事業連絡会 午前10時～

「青少年活動における身近な安全管理」

山下 耕二氏 小松 真之氏

講習会では、けが対応など、本当に身近に役に立つ知識を多く教えていただきました。心肺蘇生トレーニングツールの「あっぱくん」を使って実技も行い、救急救命には事前の知識やその場での行動力が大切だと改めて感じました。

第2回青少年指導者講習会 令和4年8月29日(月)

午後7時～

「青少年を犯罪から守るために
～スマホ・ネットに潜む危険～」

橋川 清太氏 田中 良正氏

刑法に触れる犯罪により補導される青少年は減少していますが、薬物などの危険度は増してきているようです。また、スマホの所持率は小学6年生で8割近くになっていてネット依存度も年々高くなり、SNSでの被害児童数も高止まりになっていると聞きました。満たされない思いを抱えてる子供たちに「君のことを見てるよ、きみは必要な存在だよ」とメッセージを伝え、居場所を作るためには地域の方々のお力が必要不可欠だと感じました。



第3回青少年指導者講習会 令和4年10月31日(月)

午後7時～

「多様な性を知ろう」

～経験を通じて伝えたいこと～

津村 雅稔氏 伊東 カナト氏

性のあり方は4つの要素が組み合わさってできており、人の数だけあるということ、また、新たにSOGI(ソジ)ESC(エスク)という表現も知りました。対談形式でのお話の内容も深かったです。一人ひとりが自分らしく生きられ、またそれを受け入れられる社会であってほしいと願います。



地域の学校

受付風景

自由に外遊び

学習風景

活動プログラム

合同避難訓練

学童まつり

子供たちの 居場所 について考える

昭和の時代は家庭内でも世代間交流が多くみられ、地域においても交流する機会が多くありました。平成になると核家族化が進みました。地域との交流も希薄になり、遊び場の減少がみられるとともに、遊具の種類や数も増え、おもちゃを共有して遊ぶ子供の数が減少することとなりました。

令和の時代はコロナ禍で始まり、新しい生活様式の中、できないこと、我慢することが増えました。また、在宅時間が増え、インターネットに費やす時間も多くなりました。現実世界とオンライン上の世界の境目があいまいになることによって、子供たちの現実世界での対応やコミュニケーションに影響を及ぼしています。

そして今、コロナ禍で一定の制限はあるものの、地域教育協議会の一部の行事や見守り活動、太陽の広場、地域の学校など、ようやくできることが増えてきています。

改めて、地域の大人たちが見守る中、異年齢の仲間と共に学び、集団の中から社会のルールやマナー、相手を思いやる気持ちなどの社会性を身に付けたり、「ホッ」とひと息つくことのできる《地域の居場所》は子供たちにとってかけがえのない財産であり、なくてはならないものとなっています。

この広報紙では学校支援や子育て支援、大人のネットワーク拡大や子供の課題の共有化を目的として地域教育協議会※の活動や講習会の案内、報告を紹介しています。

※地域教育協議会とは・・・市内全18中学校区内に設置されており、保・幼・小・中学校、PTA、自治会、青少年育成に関わる各種団体、地域の有志、子供たちによって構成され、子供たちを見守り育てる活動を行っています。